



農産物の地産地消を支援する 需給マッチングプラットフォーム

地域内において、農産物の生産者と宿泊施設や介護施設、飲食店など地域の顧客(実需者)を専用のアプリ上でつなぎ生産情報と需要情報をマッチングするプラットフォームです。

ジモノミッケ!®とは

生産者の減少や所得低下、販路拡大の困難等の農産業が抱える課題解決を目指し、「儲かる農業」「魅力ある職業」への転換に貢献します。

〈課題1〉

出荷や発注に関するやり取りがFAXや電話など、アナログで管理されていることが多い

- ✓ 生産者と実需者がお互いの顔が見えない
- ✓ 地域内の需要と供給の情報が把握できない

あるべき姿

地域内における需要と供給の可視化

〈課題2〉

消費が集中する首都圏への流通が優先され、地元の商品が流れにくい

- ✓ 商品価値・取引価格は固定化されてしまう
- ✓ 新鮮なまま商品が届いていると言い難い

あるべき姿

地産地消を優先した新しい流通網の構築

ジモノミッケ!®のサービスモデル案

地域内の需要と供給を可視化することによって、生産者と実需者のマッチングだけでなく、データ活用による生産現場および発注・調理現場への更なる付加価値サービスの提供をし、あるべき姿の実現を目指します。



簡易かつ柔軟な販売・発注

幅広い年代が直感的に使えるインターフェースです。需給情報は独自の出荷規格(SKU)にて登録可能。登録後は最適なマッチング相手のレコメンドがされます。

中間流通の効率化・最適化

AIやアクティブタグの活用により、物流ルートの最適化や品質管理を担うトレーサビリティ・温度管理のデジタル化ができます。

マッチング状況をリアルタイムで可視化

生産や発注の計画に役立つ取引金額、平均金額、将来の価格予測(一部品目のみ)等の情報をダッシュボードで確認できます。

精算管理の高度化

デジタル地域通貨での決済も可能にすることで、精算管理コストの削減だけでなく即日現金化できる環境を提供することができます。

詳しくは下のQRコードから



ジモノミツケ![®] 導入事例

地産地消を促進するサービス「ジモノミツケ![®]」が「デジタル田園都市」交付金事業として実運用開始

事業概要

TOPPANデジタル株式会社(旧・凸版印刷株式会社)が開発した、農産物の生産者と地域の実需者を専用のアプリ上でつなぎ、生産と需要の情報をマッチングするプラットフォーム「ジモノミツケ![®]」がこのたび、会津若松市(市長:室井 照平)における「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」の「食・農業」分野の取り組みとして採用され、2022年10月11日よりスマートシティのデータ連携基盤である「都市OS」との連携および実運用を開始しました。

- ポイント ■ デジタル田園都市国家構想推進交付金(TYPE3)の活用
- 会津若松市公設卸売市場内にある仲卸・会津中央青果による運営
- 「都市OS」を通じた他分野との連携による付加価値の創出



導入の背景

「ジモノミツケ![®]」はAiCTコンソーシアム「食・農業ワーキンググループ」活動の一環として開発した農産物の需給マッチングプラットフォームです。

2022年7月11日から9月30日にかけて行われた実証実験には、会津若松市とその近隣地域から、30の生産者と、宿泊施設、介護施設、飲食店、食品加工業者、小売店など30の実需者が参加しました。参加者からは、規格外品の取扱いや受発注の可視化による「食品ロスの削減」や、地域内流通の最適化と梱包の簡易化による「生産者負担の軽減」に対し、その効果を期待・実感する声を得られ、本サービスの有用性が確認できました。



「ジモノミツケ![®]」実証実験の様子
(左:収穫中の生産者、右:配達員から農産物を受け取る実需者)

導入によって目指す効果

生産者の所得向上

地産地消を優先した流通網の構築により、中間流通が効率化・最適化される上、こだわりの農産物を新鮮なまま適正価格で販売可能になる

実需者の送客効果

生産者こだわりの地元農産物を新鮮かつ安価に取り扱うことができ、自社の地産地消の取り組みを訴求できる

地域経済の循環促進

地産地消により、地域内での農産物流通が活性化する

×トッパンソリューション

長距離通信が可能なアクティブタグ「ZETag[®]」との連携によるトレーサビリティ・温度管理の実証実施

2022年9月には長距離通信が可能なアクティブタグ「ZETag[®]」を活用し、物流専用車両や集荷場所(生産者倉庫等)、保管場所(公設卸売市場内)にアクセスポイントを設置し、トレーサビリティ・温度管理を目的にセンシングをおこないました。

